

エコ・あぐり・タウン くねっぷ 応援団だより

令和2年12月25日発行 NO.53

訓子府町の「ふるさと応援団」にご参加いただき、ありがとうございます。
みなさまと訓子府町を結び便りにできればと考えております。

訓子府町開町100周年・町制施行70年 記念式典を挙行了しました

11月1日に町公民館で挙行された、訓子府町開町100周年・町制施行70年記念式典は新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながらの実施となりました。町内外から約110名の方が出席し、訓子府町の記念すべき日を祝うために作られた記念歌「訓子府よ永久に」（作詞：松岡 義和、作曲：小野 朋之）は感動的でした。

顕彰では、特別功労表彰5名、功労表彰4名、善行表彰3名、大正元年から昭和5年生まれの方で町内に70年以上住み続けられた永年在住者68名、100歳を超えている長寿の方10名、町政の発展に功績のある方11名と4団体の合わせて、101名と4団体のうち、当日出席された31名と4団体に菊池町長から表彰状や感謝状が手渡されました。

タイムカプセル開封式

平成8年（1996年）の開基100年記念事業の一環として、中央公園内に埋められたタイムカプセルを10月31日に開封しました。

このタイムカプセルは、2020年10月31日に開封することとし、開町100年に向けたメッセージのほか、書初めや絵、自分への家族などに向けた手紙、教科書、焼酎、くねっぷメロンワインなど約300点が収納されており、当日参加した約50人の町民の方は当時の思い出し、懐かしんでいる様子でした。



記念式典式辞



タイムカプセル開封式の様子

光ファイバーが町内全域に整備されます

今回、新型コロナウイルス感染症への対応として「新たな日常」に必要な情報通信基盤の整備が急務となったことで、国の「高度無線環境整備推進事業」を活用し、町内未整備地域の光ファイバー網が整備されることになりました。

今までは市街地にのみ開通していた光ファイバーですが、未整備の農村地帯にも開通することで情報通信基盤の地域格差が解消されることとなります。



ひだまり・わくわく園で記念事業

子育て支援センター「ひだまり」が開園から10周年、認定こども園「わくわく園」が開園から5周年を迎えました。その記念事業として「ひだまり10周年まつり」、「わくわくランド」が開催されました。

当日は、開園を祝う様々な催し物が設けられ、子供たちは楽しんでいる様子でした。



応援団トピック

◆クラウドファンディングを開設しました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて町でも防止策や支援策に取り組んでおりますが、まだまだ支援が必要な現状です。

そこでさらなる支援を充実させるため、今回クラウドファンディングを立ち上げました。クラウドファンディングのホームページに詳細な支援策について記載しておりますので、応援してくださいと幸いです。また、返礼品を選定いただくと事業者への直接的な支援にもつながりますので応援くださるようよろしくお願いいたします。

クラウドファンディングに係るご質問等がございましたら、お気軽に下記までご連絡ください。

クラウドファンディングHP画像

【新型コロナウイルス感染症対策】訓子府町で頑張る人たちを支援したい!

寄付金額 **0円**

0%

目標金額: 1,000,000円

達成率	支援人数	終了まで
0%	0人	89日 / 89日

北海道訓子府町(ほっかいどうくねっぷぶちょう)

お気に入り

ふるさと納税で応援

お礼の品を選んでこのプロジェクトへ寄付をする

↓クラウドファンディングページはこちら
<https://www.furusato-tax.jp/gcf/1143>



北海道常呂郡訓子府町東町398番地

訓子府町役場企画財政課

Tel 0157-47-2115 Fax 0157-47-2600

E-mail kikaku@town.kunneppu.hokkaido.jp

URL <http://www.town.kunneppu.hokkaido.jp/>

消防庁舎の基本設計が固まる

施設の老朽化や施設設備の課題により、国の制度を活用して消防庁舎の建て替えを行うこととなりました。町民説明会や訓子府消防団員、関係者と協議し様々な要望、意見を踏まえたうえで基本設計が決定しました。

年度内に工事着工し、令和4年秋には利用開始となります。



現消防庁舎



新消防庁舎 (イメージ)

新型コロナウイルス感染症が世界中に猛威を振るう中で...

2020年「嬉しいこともたくさんあった訓子府町」

昨年、訓子府町は大正9年に置戸町から分村して100年、昭和26年に「村制」から「町制」に変わって70年目の記念の年でもありました。新型コロナウイルス感染症予防の問題から歴史ある伝統行事の多くが中止に追い込まれましたが、11月1日の記念式典は何とか挙行することができました。そのような閉塞感の漂う中でも嬉しい事や楽しいこともたくさんありましたので、その一部を紹介させていただきます。

令和2年11月1日の記念式典の夜には大輪の大きな花火が100発以上打ち上げられました。突然の大きな花火の音で、町民の多くが「何だ?」と窓を開けたり外に飛び出たりする様子が見られました。実は3密を避けるため極秘で進められていたシークレットイベントだったのです。

令和2年12月1日には「交通事故死ゼロ」3,000日が達成され、北海道知事や北見警察署長から町内の熱心な交通安全活動が称えられ、感謝状が贈られました。

そのほか、森林の適正な管理と林業の持続的発展や健全な経営管理に努めていることが高く評価され、旭町の越高春男さんが「農林水産大臣賞」を受賞しました。また、昭和21年から林業、森づくりにご尽力された功績を称えられ、美園地区の開拓農家二代目である中野浩司さんが「森と人を育てるコンクール優秀賞」を受賞しました。

最後に、町からお菓子屋さんやパン屋さんが閉店したことを受けて、私も東京や秋田の友人をつれてに出店のラブコールを送っていたところ、函館でパティシエ修業をしていた加賀美慎也さんご夫妻のご協力、ついに11月17日「カガミ菓子店」がオープンしました。オープンの初日は開店前から長蛇の列となり、町民の方がいかに楽しみにしていたか、嬉しくてなりません。

2021年はさらに良い年にしましょう!

町長's Eye

